

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5-88		
自己評価作成日	平成24年12月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年 4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2373001128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの前には四季を感じられる広い公園があります。そこでは、野鳥や四季桜、秋には紅葉が見られ、花壇には四季折々の花々がいつもきれいに咲きほこっています。公園では家族連れでのくつろぐ姿や、地域の行事が盛りだくさんで行われ、そこへはホームから気楽に出かけられるようになっていきます。ホーム内では人格尊重の理念に基づき、全員の職員が利用者さんお一人一人へのかかわりについての話し合いを重視し、又、ホームではホームのカラーでもあるバリエーションを何年も実践して支援させていただいています。さらに、地域の住民の方々には多大なるご支援をいただけており、結果、全利用者さんが何年も入れ代わることなく活力ある生活を送れています。本当に多くの方々のご支援をいただけている愛いっばいのホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区行事に参加の折、利用者の傍で立っている職員に席を譲る人、利用者のために立っている人に座るように気配りをする人等がいる。四季桜見物の際、朝早くから弁当作りに来るボランティアの人がおり、区長、民生委員も一緒に参加する。文化祭では、『〇〇さんの作品、素晴らしいネ』と褒められて喜ぶ利用者や、カラオケ大会に参加の際に、『〇〇さん頑張ってる』と声援を受ける利用者がある。開設以来地域との交流に力を入れてきた結果、地域の方々の理解が深まり、『何かあれば地域の方々が助けにきてくれる』風土が出来ている。防災訓練の際に区長が、『ホームの夜間対応が心配なので、何か起きた時に助けにくる人』を募集したところ、522世帯の中から40人の登録があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人格尊重をベースに、ふれあい、ぬくもり、なごみをさらに深められた一年でした。どの利用者さんも地域の方々に喜び多い時間をいっぱい作っていただけました。	「その人が培って来たものを職員全員が把握して其々に合わせたケアを行っている」との管理者の言葉に、家族からも称賛の声が上がっている。職員の優しさを基本として、理念の実践に努めている。	人間尊重即ちバリエーションの思想は、ホームに関係する全ての人に理解されている。去年より今年、今年より来年とスパイラルアップした目標を掲げる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流を続けていく中、年々地域の方々の支援が深まり、そして広がっています。その結果、事業所の草刈りへの支援や、事業所と地域の防災支援では締結式が取り交わされるまでになりました。	地域のフェスタに参加すれば、利用者の傍で立っている職員に席を譲る地域の人、利用者が見にくいだろうと立っている人に座るように気遣いしてくれる人等、地域の方々に温かくええられる関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の個別相談への対応、車椅子操作の講習、認知症の方々の思いを含めた認知症についての講演をやらせていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では各参加者の方々から様々な意見、質問がでています。又、更なる支援の声もたくさんいただけ、それを実践する中で、皆さんが入れ代わりなく生活できています。	地域からは『地域の一員として見ている。配慮は必要だが特別扱いしていない。同年代で私も予備軍、皆友達』との言葉を得、家族からは『家では母を行事に出せない。ここは地域の協力がある』等の声を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係の重要性を認識しており、市町村とは(相談員さんも含め)密な連絡をとりあい、取り組みもオープンにさせていただいている。時には助言もいただけ、助けられています。	運営推進会議に出席している包括支援センターの職員や定期的に訪問している介護相談員を通して、ホームの情報は伝えられている。管理者は、市の福祉行政支援活動に積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が充分理解できている。場所的に車に対する危険性も高く、玄関の施錠は行なっているが、スタッフが事務所にいる時は、鍵を開けておくといった取り組み方にしており、以前より開錠がかなり増えています。	管理者・職員は身体拘束による弊害を熟知している。事務所が玄関を見渡せる位置にあるので出入りの見守りは確実であるが、支援が重なり職員が手薄の時に限って施錠する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同が寄り添うケアの重要性を理解している。虐待の意味の無さ、逆効果スタッフ全員充分理解しており、虐待などは一切行なわれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修で学んだ事を勉強会で報告。皆で学ぶ機会を設けた。ホーム内には、すでに制度を取り込んでいる利用者さんもおられ、そこでも学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	機会をきちんととらえ、疑問点、不安に対することにはその都度きちんと答えています。又、改定時にもきちんと話し合える仕組みとなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項等については、家族会等で直接話し合いを行ったり、ご本人の思いは職員全員が把握できるようになっています。それらをご家族とも話し合い、支援に生かしています。	アンケートに全家族が回答し、コメント欄に感謝の言葉を寄せている。『家族以上に家庭的に接してくれて〇〇ちゃんが幸せそうで安心』との言葉から、利用者だけでなく家族からも全幅の信頼を得ていることが分かる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の理事長が訪問してくれたり、又、事務長が運営推進会議に出席したり、管理者は職員会議、その他個々のスタッフとの交流で意見や提案を聴く機会を設け、反映させています。	職員ヒアリングでは、『家庭の事情がない限りやめる職員はいない。ホーム全体で助け合う輪が出来ている。皆が言葉に出してくれ、職員同志の輪が素晴らしい』との声があり、何でも話し合える雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事務長と共に、職員がより働きやすい環境でいられるように、環境・条件整備をしてこられました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員をねぎらってくれています。そのような環境にあつて職員も学ぶ意欲がアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この点は代表者は管理者に一任。管理者が自ら学ぶ勉強を通じ、同業者とは定期的な交流があります。現在も月に1回、2名の方がホームに勉強のため訪問下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一番不安なこの時期、家族からの情報も大切にし、その時々本人の身体、精神的状況を見逃さないように、細かな視点にスタッフ全員が立っている。それらが申し送りに生かされ日々の支援へとつなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人のこれまで築いてきた関係性は様々。それまでの家族の思いを知ること、現在の思い、これからの不安に対して対応をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心して生活していくには、本当に細やかな支援がとても重要だと思います。そのためには他のサービスも取り込んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の利用者と職員という立場だけでなく、共に暮らす場と考え、本人ができることは時間がかかってもスタッフと一緒にいることができるような支援をしています。その結果、ここ何年もどなたも入れ代わりがありません。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が一番大切な家族。現状を家族に伝えること。そこから家族も本人の“今”をしっかりとキャッチして下さり、協力が大きいです。何年経っても、とてもこまめに支援してくださっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、利用者さん3名の方の知人という方が何回か訪ねて下さった。ご本人はそれが誰かも分からなかったが、おりにふれ側に寄り、寄り添って下さり、ご本人もとても嬉しいという表情が見られました。	利用者の生活歴を家族から聞き取り、従来の生活(利用者が大切にしていた近所の友人の訪問、良く通った喫茶店へ行く、馴染みの美容院がカットに来てくれる等)の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週1回行なうグループバリデーションでは、何らかの形で全員参加できるようにしている。そんな中、本人達からはスタッフを含め“皆仲間”という意識に発展。安気に生活されており、その力は大きいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族が、7年以上の継続した月/1回のボランティアさんで来てくれています。別の方は毎年庭の夏みかんを届けて下さり、又、別の方は亡くなった連絡を下さったりと交流は続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を言える方はそれをもとに支援。重度化した方については、ケアプランの作成でスタッフ全員が話し合いを行い、本人の様子をよく把握して、より本人の望む支援を行なえるよう努力しています。	会話・笑顔・しぐさ等を注視し、『思い』の把握に努めている。共有すべき事は、会議で報告している。グループバリテーションを通して、利用者個々の『思い』は把握されている。	自分からあまり喋らない利用者には誘い水(写真、昔の本・広告、家族から聞いた昔話等)を仕向け、利用者が甦る工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限りの情報をいただいているが、家族によってはあまり知らない方もおられる。今後は把握する方法を変える必要性もあると思っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りがしっかりとされており、職員会議も毎回全員参加している。したがって職員は現状把握できています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは毎月家族へ説明し、意見をいただいている。それをもとに、スタッフ間でカンファレンスや職員会議を行なう。又、言える方は本人の気持ちを取り入れたプラン作成としている。さらに自治区の方の支援もいただけ、大きな輪で支えられている。	本人・家族・職員間で話し合を持ち、本人の思いや家族の希望が組み込まれた計画を立てている。家族の希望である『足・腰を強くしてほしい』をケアプランで取り上げ、猿投神社への散歩を毎月行った事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にスタッフがカルテに細かく記載している。特に重要な点は、申し送りノートにも記載し、スタッフ全員で情報を共有している。そんな中から、次への展開につなげていけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんそれぞれの要望に合わせ、できないと決め付けることなく、要望にそったサービスが行なえるようスタッフが模索する姿勢ができています。ご家族の思いにも耳を傾け、それを次につなげる努力もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームはとてもよい環境にあり、地域活動へは全員参加できる機会も多いです。昔なじみの方が声かけをして下さったりと、とにかく地域の方の支援が大きいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、認知症専門医、法人のDrの定期的支援と3ヶ所の医師の協力の下、その時々必要な医療を受けられています。その結果、皆さんの長期入所につながっています。	かかりつけ医・認知症専門医・法人施設の医師3名が常に協力し、利用者は何の心配もなく過ごしている。家族アンケートの『健康・医療・』の項目でも、家族全員から「満足」の回答が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はホームにいないものの、上記のようにDr3名が常に協力下さり、何も問題なく過ごせています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この一年間に入院等は一切ありませんでしたが、常にDrの方々に細かい支援をいただいております。おかげさまでホームは安心してきています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、重度化してきている。医療面ではDrと細かく話し合い、助言をいただいたり、家族にも細かい連絡を取って支援させていただいております。それら皆の力が合わせられ、今は重度化された方でも、再び活力がでてきています。	家族から『母は幸せ者、最後まで見て欲しい』、利用者から『世話になった人に囲まれて』との声がある。職員は、喜びに満ちた『心』は良い治療薬と、どうしたら『心を満たせるか』とを試行錯誤する中で、利用者・家族・職員・医師が素晴らしい絆になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法を事業所内で実施しており、今年度はご家族や、中には利用者さんも参加されました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の日を月に1回設け、訓練等を定期的に変更しています。ここには地域の方も参加して下さることもあります。地域ボランティアさんの支援をいただけることにもなりました。	毎月防災の日を定めて訓練を実施している。地域の方より、『ホームの夜間対応が心配なので、事故発生時の応援隊を設けたい』との提案があり、地区内の522世帯に呼び掛けられた結果、40人の登録を得た。	40人の協力者を得る事が出来たので、各々の役割を決め、実際の訓練を行い、真に応援隊の機能が発揮されるように備える事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が理念の重要性を理解しており、何よりも人格を尊重した対応を大切にしています。	職員がバリデーションでレベルアップ・スキルアップしており、理念の『人格尊重』が実践されている。個人情報・羞恥心・言葉づかい等は周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居期間の長期化により、思いを伝えられない方も多量中、普段より視点を細かくすることにより、重度の方にも自己決定により近いように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々業務に追われて職員の都合になることもありますが、年々入居者さんのペースで一日が送れるよう支援がすすんでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日パシッとおしゃれにというには行き届かないですが、思いを伝えられる方は、そのことを尊重し、言えない方には、過去のその人らしさで支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備と片付けはずっと行なっていますが、今年度は週に1回ごはん作りの日を設け、利用者さん主体の日ができて、皆さん喜んでいきます。	週に一度、全員で一緒に食事作りをする『ごはん作りの日』を設け、利用者が出来る事を手伝い、楽しみ、張り合い、自信を引き出す取組を行っている。できる利用者は、回を重ねる毎に上手に料理をこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はすべての方について把握できており、その方、その時々々の支援の方法も、ちゃんとその方のその時の状況を判断した上で対応するよう全職員がやれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診をいただき、皆さんよい状態で生活できています。やはりお昼のみ一部の方がきちんとやれていないのは反省点です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	この一年間では、オムツ対応の方をトイレ誘導し、ご本人の自立につながられた方もいます。そのことで職員の喜びも大きくなりました。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間になったら上手くタイミングを合わせてトイレ誘導している。オムツ対応の利用者が、トイレ誘導により改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘での悪影響は職員の理解はできています。残存能力に差が大きいですが、個々の方に合わせた予防の支援にスタッフ全員で常に話し合っています。又、それらを次に生かしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員がバランス良く入浴できるように、入浴日や時間は決められているが、順番はできる限り希望を取り入れています。	入浴は1日おきで、入浴時間は午後に決められている。軽く入浴拒否をする利用者があるが無理強いせず、気長に声かけを行っている。拒否の人も入浴すれば気持ちがよくなり、『有難う』と言ってくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを乱さないように支援。又、その日の体調を全職員がしっかりと把握。個々のパターンを知っていることも含め、充分できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬による症状の変化については、全職員での話し合いが多いので把握できています。理解については、非常勤職員のみまだ不十分な職員もいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所の長期化に伴い、残存能力の差は大きいものの、入居者さんの好きなものなどを理解し、細かい個の支援を大切にしている。その結果、コミュニケーションのレベルはアップしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の能力にあった散歩やドライブ、買い物などの支援を行なっている。行事など多人数のスタッフを必要とする時は、家族や地域のボランティアさんなどに協力をいただき、寄り添うケアに努めています。	地域行事(自治区花見・避難訓練・盆踊り・敬老会・餅つき・お祭り・フェスタ・文化祭・運動会等)に参加している。日常的にはおやつ・食材の買い物、近所の喫茶店・神社・弘法さん等利用者の希望に合わせ出かけている。重度の人は日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる方がいない為、全て事務所預かりとなっておりますが、入居者さんが何か欲しい等の訴えがあった時には、スタッフ付き添いの下、使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話したいとの訴えあれば、スタッフ支援の下かけています。手紙は日常的に行ってはいませんが、年賀状は書ける方はスタッフ支援の下、書いて出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱のある方には貼り紙をしたり、テーブルクロスは無地に替えるなど、混乱しないよう配慮している。又、季節のお花は常に絶やさず、季節の果物も飾ったりしています。	天井が高く開放的であり、リビング、廊下には季節感あふれた花々、果実が活けられている。四季を感じ、利用者が落ち着いた雰囲気の中で生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした思いで、一人一人が自分の好きな時間を過ごせるようソファを用意したり、又、皆で楽しめる時間も定期的に用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが希望する私物があれば、家族と相談し、できる限り設置しています。どんぐりの家の都合で一方向的に断ったことは一度もありません。	居室2部屋の間にはトイレが設置されており、利用者の排泄支援には大きな手助けになっている。部屋に合わせた豪華なカーテン、ベルサイユ調の大型机・収納ダンスが設置され、豪華な雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	マットレス使用、手すりの追加、リクライニング車椅子の購入、カレンダーの見直し等々、他にも入居者さんの認知レベルに合わせた居室空間、フロアの整備に努めています。		

目標達成計画

作成日：平成 25 年 4 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	入居者さんの長期入居による重度化により、全体の支援の手がかかる事から、入居者さんと地域の方々の自然な触れ合いが少なくなっている。結果、ご本人の喜びや、認知症の方々を知っていただける機会が少なくなっている。	地域資源をもっともっと活用し、入居者さんの外出を増やし、人との交流を増やす。その事を通し、認知症があっても支えあえば、生活には困らず、笑顔も一杯出ることを知っていただきたい。	日々の生活の中で支援いただけるボランティアさんの受け入れ他、ボランティアさんのお力をお借りする事が増やす。地域の教室、毎週の朝市など、従来にない地域との関りの開拓等を取り入れさせていただき、人との関りを増やしていく。	12ヶ月
2	35	地域役員さんの交代などがあるが、昨年発足いただいた災害時支援ボランティアの地域の方々のボランティア体制の継続。	昨年度に引き続き、今年度も地域とホームの合同の災害時の訓練の実施他、事業所から地域に対して出来る事の実施。	例年同様、ホーム内での定期的訓練の中で、年2回、区長さんを始めとした代表の方々を交えた災害時への訓練の実施。事業所から見える公園の中のごみ拾い等、事業所として地域に対してやれる事の実践を行う。	12ヶ月
3	23	入居期間の長期化により、加齢に伴う身体の重度化の方々とコミュニケーションが薄くなっている。職員の入れ代わりも無く、つつい現状に慣れてしまいがちになっている。	現状に慣れることなく、常に原点に立って、一人一人の方達の個性を大切にしたい関りをもって行きたい。	今まで構築してきた皆さんとの歴史のあるアルバムや、また情報に再度目を向け、ご家族、ボランティアさん、職員といった人達の連携を強くした中で、一人一人の方の支援をして行く。	12ヶ月
4				上記3項目については、1ヶ月ごとの職員会議で反省会をして行く。	ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。